

平成28年10月5日

関係大学長殿
関係学部等の長殿
関係機関等の長殿

国立大学法人 宇都宮大学
農学部長 夏秋 知英

教員の公募について（依頼）

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

この度、国立大学法人宇都宮大学農学部生物資源科学科では、下記の要領で教員を公募することになりました。つきましては、関係の方々にお知らせ下さるとともに、適任者の応募、推薦についてよろしくお取りはからいますようお願い申し上げます。

なお本件は、本学ホームページ（※）の教員公募にも掲載しております。

（※）<http://www.utsunomiya-u.ac.jp/outline/saiyou.php>

記

1. 公募条件

- （1）専門分野と人員：植物保護科学分野の助教1名（なお、本ポストは一定期間（4～5年間）の期限付きポストであるが、3年目から5年目の間にテニユア審査を経てテニユア（任期のないポスト）へ切り替える予定です。）
- （2）担当授業科目：基礎化学Ⅰ・Ⅱ、植物保護学（植物病理学分野）、ゲノム解析論、分子生物学実験の他、これらに関係する実験・実習科目、並びに大学院修士課程の講義・実験・研究科目。また、卒業論文や修士論文の指導。なお、生物資源科学科の初期導入・リテラシー・自然科学系科目等の基盤教育科目を担当する場合があります。
- （3）応募資格：次の要件を満たす者
 - ①博士の学位（外国において授与された方はこれに相当する学位を含む）を有し、平成29年3月末時点で35歳未満の方。
（この公募は、国立大学改革強化推進補助金（※）により、若手研究者の採用拡大を目的とするものであり、雇用対策法施行規則第1条の3第1項第3号ニの例外事由に該当。年齢制約に関する詳細は、本学総務部総務課教員人事係（028-649-5022）まで、お問い合わせください。）
 - ②国籍は問わないが、日本語で上記の担当授業科目を実施する能力を有する者。
 - ③植物病原微生物の遺伝子解析、植物-病原体相互作用の分子レベルでの解析に関する優れた研究業績を有し、特に分子農学において学部生、大学院生の教育並びに研究指導に熱意をもち、学部・学科等の大学運営に関わる業務や地域貢献に積極的に取り組み、植物の病気に関する分子農学的研究を力強く推進する者。

2. 女性の応募について

本学は男女共同参画社会基本法の趣旨に沿って、女性の積極的な応募を歓迎いたします。また、本学では、子育てと仕事の両立支援策を推進しています。峰キャンパス内には「宇都宮大学まなびの森保育園」（<http://www.manabinomorihoikuen.org/>）があります。

3. 提出書類

- (1) 履歴書（本学所定様式を使用し、署名捺印すること。年齢は記入日現在とする。）
- (2) 業績調書
 - ・著書、論文、学会発表及び研究報告等（本学所定様式を使用し、著書、論文、学会発表、その他に分けて記載すること。）
 - ・学会活動、社会活動等（本学所定様式を使用し、学会活動、社会活動、その他に分けて記載すること。）
 - ・外部資金獲得状況（本学所定様式を使用し、記載のこと。）
 - ・教育実績（本学所定様式を使用し、記載のこと。）
- (3) 教育・研究における抱負（本学所定様式を使用し、A4判用紙にそれぞれ1,000字程度記載すること。）
- (4) これまでの研究内容（A4判用紙に2,000字程度。様式自由）
- (5) 社会貢献に対する抱負（A4判用紙に1,000字程度。様式自由）
- (6) 応募者の研究・人物等について照会できる方（2名）の氏名・所属・連絡先
- (7) レフェリー制を有する学術誌に掲載された主要な原書論文5編以内（別刷りまたは学協会等のWebサイトに掲載されたPDFをダウンロードして印刷したもの）

なお、様式（1）～（3）は本学HP（<http://www.utsunomiya-u.ac.jp/outline/saiyou.php>）よりダウンロードするか、下記に請求してください。

請求先：農学部総務係 石川 宛

e-mail：nousomu@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

TEL：028-649-5399, FAX：028-649-5401

4. 応募締切：平成28年11月16日（水）必着

5. 書類の送付および問い合わせ先：

〒321-8505 宇都宮市峰町350 宇都宮大学農学部 和田義春 宛

e-mail：wada_ at _cc.utsunomiya-u.ac.jp（_ at _を@に置き変えて下さい。）

TEL：028-649-5414 FAX：028-649-5414

※封筒の表に「教員応募書類在中」と朱書きし、簡易書留にて郵送してください。

6. 採用予定時期：平成29年2月1日以降の出来るだけ早い時期

7. 選考方法

書類選考後、最終選考にあたっては平成28年11月27日（日）に面接・プレゼンテーション（これまでの研究内容、教育・研究・社会貢献の抱負を含む）をお願い致します。ただし、プレゼンテーションは専門外の方にも理解できるように工夫して下さい。なお、面接のための交通費は自己負担であることを申し添えます。

8. 応募時に提出される個人情報の取り扱いについて

- (1) 応募時に提出された書類の個人情報については、採否の検討および決定に限って使用いた

します。

- (2) 応募書類（別刷りまたは学協会等の Web サイトに掲載された PDF をダウンロードして印刷したものを含む）は原則返却しませんので、あらかじめご了承ください。返却を希望される場合は、切手を添付した返送用の封筒を同封して下さい。

<付記>

本学部は、東京農工大学および茨城大学とともに連合農学研究科（後期3年のみの博士課程）を構成しており、採用後は連合農学研究科の指導教員資格審査を経て博士課程の教育研究の指導にも携わっていただくことになります。

宇都宮大学は地域の「地（知）の拠点」として地域社会から期待・信頼され、広く社会に貢献する開かれた大学として、「グローバル化社会への対応」、「イノベーション創出」、「活力ある持続可能な地域社会の形成」を目指して、教育・研究・社会貢献を推進しています。

農学部では生命の営みを遺伝子レベルから個体レベル、集団レベルにおいて研究して、食料生産およびヒトが健康に生きるための食品や日用品の開発、地球上の生態系の保全にも貢献することを目指しています。このような現状のもとで現在、「分子農学」「生産(フィールド)農学」「環境農学」を基本的な考え方として、教員人事や修士課程の改変を視野に入れています。

生物資源科学科では、食料等の人の生存に欠かせない生活資材を生産する生物資源の機能解明と開発を通じて、生物資源の持続的生産と、地域から地球に至る環境の保全を図るための基本的・応用的な教育研究を行います。そして、生物資源の合理的な生産と利用に関する理論と実践力を身につけ、グローバルな視点を持ち、農業や関連産業に貢献できるスペシャリストでありながら、ジェネラルな素養を持つ人材を養成します。この中で、「分子農学」では「農学」に「分子」レベルの教育研究を取り入れることで、将来の食・農・環境分野に貢献できる人材の育成とともに、「分子」と現場を結ぶ応用研究での貢献が期待されています。一方、植物病原微生物による難防除病害が世界中の農作物で多発し、新たな防除技術の開発が求められています。このため、分子農学の基盤となる基礎化学から植物保護科学分野の講義、実験、演習等を拡充するとともに、「分子農学」を教育研究できる若手人材の確保が農学部の将来に必須と考えています。そこで本人事は、分子農学の教育研究を発展させることを目的としています。植物保護科学分野は、農学の中でも作物生産を安定的に支える分野として必要不可欠です。そこで、病原体の遺伝子解析や植物-病原体の相互作用を分子レベルで解析し、分子農学における教育研究の展開を力強く推進する若手人材を、公募によるテニユアトラック助教として新規採用し、本学部を強化しようと考えています。このような視点に立ち、共に教育、研究、社会貢献を担っていく人材を求めています。

なお、本学部・学科の概要についてはホームページ

<http://agri.mine.utsunomiya-u.ac.jp/index.html> をご覧ください。

※国立大学改革強化推進補助金（特定支援型）「優れた若手研究者の採用拡大支援」

「国立大学改革プラン」におけるシニア教員から若手・外国人ポスト振替等を進める意欲的な大学への積極支援に加えて、「国立大学経営力戦略」においては、活力ある教育研究を持続的に保証するという観点から、中長期的な視野に立って教員の年齢構成の是正を図り、若手が活躍できる、安定性ある環境を整備する、とされている。以上のようなプラン・戦略を受けた若手研究者のポスト拡大のための取組について、集中的・重点的に支援を行う事業。

なお、文部科学省国立大学改革強化推進補助金（特定支援型）「優れた若手研究者の採用拡大支援」事業が採択されなかった場合でも、本公募はここに示されている形で実施します。